

# 平成29年度 自己評価実践報告書

福島県立福島東高等学校長

## 1 自己評価の概要

- (1) 『学校経営・運営ビジョン』に基づく自己評価の概要と改善点  
「平成29年度学校の自己評価等の進め方について」に基づいて、『ビジョン』の作成及び評価を実施した。平成28年度の改善点を踏襲した。
  - ①『ビジョン』の重点目標は、校長の経営方針に基づく文言に加えて、各部・学年・教科の努力目標のうち、全教職員がその意義を共有し、チームを超えて学校全体で実現に取り組みたい事項を掲げた。
  - ②『ビジョン』においては、「数値目標」ではなく「指標」を掲げた。
  - ③『ビジョン』に関する自己評価の参考資料を得るためのアンケート調査においては、質問項目を精選した。
  - ④各部・学年・教科の年度末評価（反省）の実施時期を早め、アンケート結果と併せての総括評価を第3回学校評議員会に提出できるようにした。これにより、学校評議員からの評価を踏まえて、次年度の計画策定をする時間が生まれた。
  - ⑤全体として、学校評議員制度、人事評価制度等と学校の自己評価の体系を有機的に結びつけた。
  - ⑥平成29年度は、教員の日頃の探究的な取組を「可視化」するために、教員の人事評価シートに「研究テーマ」を位置づけた。
- (2) 校内組織体制について  
校務運営委員会を学校評価委員会に位置づけた。
- (3) アンケート調査

### ①調査の概要

対象	配布日	〆切日	回答率	内容
生徒	1・2年	1・2年	97.2%	質問は10～11項目に厳選し、評価者間の差も分析対象とした。
保護者	1月30日（火）	2月5日（月）	80.7%	
	3年 1月26日（金）	1月30日（火）		
教職員	1月30日（火）	2月5日（月）	94.6%	

### ②評価の基準

「そう思う」「ややそう思う」「あまり思わない」「全く思わない」の4段階評価とした。

## 2 広報の概要

- (1) 『ビジョン』、アンケート調査結果、年度末総括評価（学校評議員による評価を含む）については、学校のホームページで公表する。
- (2) アンケート調査結果については、PTA役員会、次年度PTA総会等で配布する。
- (3) 学校の教育活動全般については、ホームページの記事の更新、各種通信（『東高通信』（教務部）、ほけんだより、東高図書だより、生徒会新聞、東高新聞（新聞委員会）、生徒会誌『まほろば』、図書館報、PTA広報紙・新聞）等で、保護者等への広報に努めている。

## 3 『ビジョン』の総括評価（目標の達成状況）

- (1) 重点①「学びの充実」  
生徒と教職員が高い目標を共有して教育活動を展開しており、授業を大切にす姿勢が確立している。「対話」型の授業研究が多数実施された。授業交換等により自習

時間も相変わらず少ない。

大学進学プロジェクトは計画通り実施され、進路指導部は「進路情報センター」として機能した。大学合格者については、国公立推薦・AO合格者は例年並みであった。センター試験の結果は昨年度よりも高く、前期試験は善戦した。

英語科は外部資格試験受験者を昨年比で倍増させた。

家庭学習時間と学習科目の時間配分等には課題がある。2学年が課題としている「自立した学習者としての文武両道の実践」は本校全体の課題である。「主体的な学び」に対する満足度は、3年生の82.9%に対して2年生68.8%、1年生64.9%と、下の学年ほど満足度が低い。教授方法の違いによるものか生徒の変化によるものか検証する必要がある。

学校全体として学習指導を大変丁寧に実施している。高大接続改革に備えて、カリキュラムの見直しと授業の質の改善を着実に進める。その中で、難関大学や医学部を目指す上位層の育成を図る。

#### (2) 重点②「体育文化活動の充実」

夏・冬の球技大会、マラソン大会、東桜祭(文化祭)、芸術鑑賞会等、体育文化的な行事も充実しており、行事に向かう生徒の意識も高い。

多くの生徒が部活動を継続し文武両道を実践している。弓道部、テニス部と放送委員会が全国大会に出場し、多数の部が東北大会に進出した。生徒会は、震災後途絶えていた地域清掃を復活させた。

#### (3) 重点③「キャリア教育の充実」

平成28年度に初めて「キャリア教育」を『ビジョン』に掲げた。

授業に加えて、地域社会見学、未来の知事選等、行政・地域企業等とタイアップしての優れた取り組みが行われているが、総合的なコミュニケーション力の育成については、学校全体で改善の余地がある。

新体力テストA級取得者は、他校と比較しても高水準を維持している。男子は、運動部加入生徒の割合が約90%と高く、2・3年生での体力の向上は著しい。女子の運動部加入率は50%である。学芸系部活動の活動も大切であり、体育の授業や学校の各種行事全体で、計画的に体力の向上を図れるようにしたい。

昨年度より、1年生の歯科治療率100%を指標のひとつとした。本校では「う歯有病率」が高く、受診結果報告率が著しく悪かったからである。厚生部はもとより学年と部活動顧問からの働きかけを強化し、平成29年度1学年の治療率は72%まで向上した。引き続き、校内の協力体制を維持して良好な結果を出したい。

年間皆勤者は3学年併せて253名(全校生の約30%)であった。

図書貸し出し数は、2169冊(2/19現在 昨年度同期1941冊)で、目標冊数2500冊に近づいている。読解力や総合的な学力、社会問題への興味関心を高めるためにも図書館利用を促進させる。

SNSの使い方や依存の問題は本校においても課題であり、平成30年度入学生から、オリエンテーションにおいて新入生とその保護者に、外部講師による講話を実施することとした。

#### (4) 重点④「情報発信・共有、施設の活用」

全教員による「入試改革校内研修会」「東高を考える会」等において中高の接続等の本校の課題について意見交換が行われた。

域内の中学生に対しては、東高見学会や高校説明会で「東高の教育」をアピールしたが、本年度の志願者数は昨年度に比べると減少(一昨年度と同程度)している。ホームページによる情報提供量は向上し、1年間のアクセス数は8.7万件超となった。台風等の接近に伴う臨時休校等の連絡やインフルエンザによる学級閉鎖等については、緊急連絡メールが活用された。

施設については、南校舎大規模改修の準備が始まった。AEDを2台増やし計3台にした。

#### (5) その他

文武両面でのよき伝統を維持しつつ、高大接続改革にそなえて体制整備を計画的に進める。

教職員の学校評価アンケート回答率は、大幅に向上した。

#### (6) 総括

計画に則った教育活動を実施することができた。教員は長時間生徒と向き合い、学習活動・部活動・生徒会活動等の各方面で成果を出している。

「子どもを東高に入学させてよかったと思うか」という問いに対する保護者の回答は、「そう思う59.5%」+「ややそう思う30.9%」=90.4%であり、昨年度までと同水準で、満足感を持っていただいている。しかしながら、「入学してよかったか」という問いに「そう思う」と答えた生徒は、平成26年度の51.0%から、昨年度37.8%、今年度39.1%と減少している。また、「文武両道というモットーが素晴らしい」と思っている生徒も、平成26年度の50.1%から昨年度39.1%、今年度30.3%と、減少傾向にある。本校の特徴・強みを一層伸長させつつ、その意義を丁寧に生徒に伝えるとともに、文武を両立させて勉学の時間が確保できるよう、バランスの良い学校運営を図る必要性を感じている。

学業・進路の悩みでカウンセリングを受ける生徒は多い。課題の量や提出のさせ方等について、改善を図っているところだが、一層具体的な改善策を講じる必要がある。

## 4 学校評議員による評価

### (1) 肯定的な評価

[学校経営・運営ビジョン]

- 適切である。
- 文武において高い教育目標を定めて高校生活を送るという大変シンプルでわかりやすい保護者や地域への提示があり、生徒を有名大学へ進学させるという実績を積みできたのは目標改善があったからこそだと思う。これからも高い目標を掲げて定期的に改善を行い、一層難関大学に合格者が出るような『ビジョン』展開を期待している。
- 全体的な学校経営という面では、それぞれの明確な『ビジョン』に対し教職員の皆さんが実践され、自己評価という形で検証し、その結果を内外と共有し、次の課題につなげてゆくという形で、効果的に運用されていると思う。
- 保護者のアンケートで「入学させて良かった」という答えが大半を占めていることが、『ビジョン』の展開がしっかり行われている結果を示していると思う。
- 震災後に途絶えていた（校外での）清掃活動が再開されたと聞いて嬉しく思う。これからも積極的に実施してほしい。
- 清掃活動等のボランティア活動など、地域社会との連携に役立っていると感じる。
- キャリア教育の充実を、課題を含め、今後も取り組んでいただきたい。
- 評議員会での学校説明を受けて、（生徒）指導・教務・進路の先生方が詳細に生徒の状況を把握対応している印象を受けた。文武両道の実践校なので先生方には負担が大きいですが、外部顧問や休養日等で改善されればと思う。アンケートでは8割の在校生と保護者が満足の回答をしている。

[自己評価]

- 評価活動により現出した課題等について、改善の方向へは向かっている。
- 学校からの情報提供はなされており、保護者の関心は、HP、『東高通信』等共に高いが、生徒がそれらに目を通してしている割合は年々低くなっている様に思われる。
- アンケートは多岐に渡る学校経営・運営ビジョンの設問になっており評価できる。生徒保護者の回答数も高く、特に教員の回答数は以前より上がっており、評価活動が浸透している。
- 適切である。前年に比べて教員からのアンケート回収率が上がったことはよかった。
- アンケート調査の回答率から考慮し、ビジョンに対しての評価活動は浸透している

ように感じられる。

[情報公開]

○適切である。

○東高通信等での広報活動は積極的に行われていると感じる。

(2) 改善を要する点

[学校経営・運営ビジョン]

△学校全体の方針の取組や課題の改善という面では、効果的に運用がなされている一方で、生徒個々のエネルギーが以前より少なくなっている様を感じる。世代共通の問題もあるかもしれないが、生徒個々の個性や思いへの理解（少なくとも寄り添うという姿勢）がもしかしたら薄くなっていて、それがアンケートでの「入学して良かった」の減少傾向につながっていないか、検証の余地はないか？（ただ、以前と比べてということで、水平比較で見たときには東高は悪い方ではないと思う。）

△アンケート結果で、入学してよかったかという問いに「そう思う」と答えた生徒が減少していることが懸念される。生徒がそのような答えた理由も分かれば、手を打ちやすくなり、更に、モチベーション増にもつながるのではないかな。

△不登校、長欠に関しては、学校・保護者・生徒間の連携を強化し、改善策による結果を期待する。

[自己評価]

△昨年資料と比べると各設問の評価は上下しているものの全体的には横ばいで推移しているため、評価活動はある一定の学校改善に機能していると思う。評価が下がっている項目については、総括し改善実行をお願いする。

[情報公開]

△保護者アンケートで「7 本校ホームページを通じて、お子様の学校生活の様子を知ることができる」「10 本校はいじめ防止の取り組みをきちんと行っている」の「わからない」の回答率が高いことが気になる。PC版とモバイル版のHPを見てみたが、目標のコンテンツ（とくに、いじめ防止の方針）にたどり着くまで、何度もクリックを繰り返さなければならぬのが少し面倒に感じた。よりわかりやすく使いやすいHPの設計が必要なのではないかと思う。

△東高通信を見る生徒や保護者のアンケート等の回答率を見ると、特に保護者の関心の高さなどがわかり、よって、情報が公開され提供されていることがわかる。しかし、ホームページに関しては生徒・保護者とも低く、地域の方や中学生に対しても東高独自のホームページで情報を発信されることをお願いしたい。

## 5 平成30年度の学校経営方針(素案)

(1) 4本の重点項目「学びの充実」「体育文化活動の充実」「キャリア教育の充実」「情報発信・共有、施設の活用」について、各部・学年・教科等の目標をもとに具体的な指標を定めて実践する。

(2) 本校の歴史・現状・将来のあるべき姿と高大接続改革、学習指導要領改訂等の教育界の動向を踏まえて、カリキュラムの改善を着実に進める。議論の中から具体化する改善策は順次取り入れて、教育の質の一層の向上を目指す。